

○市印学園短大 島田裕子 山田孝政短大 志水暎子

愛知女子短大 泉谷秀子

目的 集合住宅の住戸面積や室数は、量から質への変化とともに向上したが、玄関・洗面所の広さは依然として狭いと多くが多い。本研究は、集合住宅における玄関・洗面所の広さと環境についての意識と実態を調査することにより、その問題点を明らかにし、今後の集合住宅を設計する際の基礎資料を得ることと目的とする。

方法 名古屋市住宅供給公社(分譲)で、建設年10年以上のもの、10年以下のもの各1団地を抽出し、アンケート調査。配布数195戸、回収数79戸(回収率41%)。調査内容は団地の属性・玄関・洗面所に関する環境評価、置いているものの実態について。

調査期間は昭和58年10月～11月

表1. 団地の属性

団地	建設年	戸数	階数	型	住居面積	玄関間	洗面所	バルコニー
0団地	544年	158戸	3.4F	3LDK	68㎡	1.08㎡	1.1㎡	10㎡
5団地	553年	96戸	11F	4LDK	83㎡	1.01㎡	5.0㎡	13㎡

結果 団地の属性は表1の通り

居住者の世帯主年令は両団地とも40代4割、30代3割、20代2割。家族数は4人4.5割、5人、3人各2割。家族形態は夫婦のみ1.5割。夫婦+子8.5割。長子年令0～11才4割、12～17才3割、18才以上3割。居住年数は5年未満6割、5～10年1割、10年以上3割。なお、0住室の特徴はエのある庭つきバルコニーを保有している。

表2

年	住居面積	玄関	洗面所
541～46	59㎡	1.3㎡	1.9㎡
547～52	67	1.4	2.0
553～57	85	1.6	2.0

表2 名古屋市住宅供給公社の玄関・洗面所の面積の経年変化